
コメント
藤田佳久（愛知大学）

私もコメンテーターになっていますので、せっかくの機会ですから、少ない時間で私が感じた点を、4人の方にそれぞれお話ししてみたいと思います。

宮沢先生と同じところもありますので、それらは省略いたします。単刀直入に入ります。まず宋先生の話です。宋先生は、今日は非常に貴重な中国での和諧社会のとらえ方、歩みも含めて、その背景等もお話しいただきました。今日、午前中の経済セッションでもありましたが、中国のなかでの階層制の問題、これは抜き難い長い歴史の下にあるような気がします。しかも、都市と農村という地域差別という問題にもなっていると思いますので、このへんの階層社会をどのようなかたちで、今後その壁を乗り越えることができるのでしょうか。これは大きな問題になりすぎるのですが、それを例えば今の和諧社会を実現するという過程のなかで、その問題をどのように解き明かしていけるのでしょうか。

私は、1998年から2000年はイギリスにいました。当時はブレア政権で、労働党政権でした。その労働党政権のブレア首相時代においても、地域差別というよりは国全体のなかの階層制が非常に顕著でした。そのなかで、ブレア政権が提案したのは開かれた階層社会です。階層は難しく、いきなり分解はできません。そこで風通しのいいものにしようという提案で、いくつかの政策が実施されておりました。

中国の場合には、そのへんはどうなのでしょう。それと絡めて、中国へ行きますと「和諧社会」という言葉がいろいろなキーワードで、大きなスローガンとして都市から農村まで掲げられていますが、スローガンの有効性、階層を越えた、あるいは階層間での有効性とはどの程度あるのでしょうか。そのへんを中国におられる宋先生から実感として少しお話が聞ければと思いました。

それから一ノ瀬先生の場合、以前は農村の問題もやっておられましたが、今回は都市のお話が中

心だったと思います。伝統的な風水思想も出されて、非常にユニークでいろいろなご提案があって面白いと思いました。例えば、現在の中国の都市へ行きますと、昨日も画像でお示ししましたように、青海省の西寧の街のなかまでビルラッシュです。都市がものすごい勢いで上に伸びています。横も少しはありますが、ほとんど上に伸びています。この背景には、土地利用規制というものが、依然としてあるのではないのでしょうか。逆に日本は、そのへんが非常にいい加減ですから広がってしまうところがあります。

したがって、都市は垂直的に伸びるのが今の中国ですが、それが持つ意味、それが本当にいいことなのかどうか。いろいろなコストもかかるでしょうし、例えば、先ほど李先生が間違えてお答えしたように都市のなかに自動車の大渋滞が起こるというものも、高層ビルという都市のつくり方の問題と絡んでいるのではないのでしょうか。そうすると、あまり高いビルができると当然風通しもよくなるとは思えませんので、そのあたりをどのようにお考えなのかということです。

それから次は宋先生ですが、私が最初に中国へ行ったのが1978年です。やはり町とか村の組織がどのようになっているのだろうということを、いろいろと当時の通訳の方にお尋ねしましたが、中国は社会主義の国であり、社会階層がないから社会というものがありません。したがって、社会学というものは大学にはないというお話を聞きましてびっくりしたことがありました。現在、宋先生のような方がその問題を取り上げてこられたというのは非常に画期的であると思います。

その場合に、今日のご概念のなかで「地域社会」という言葉が使われました。日本で使う地域社会と、長い間、国の管理下にあった状況のなかでの地域社会は、同じなのでしょう。例えば、日本の例では、かつては伝統的に古い町のなかの町衆などがあって、高度経済成長期に地方から多くの人たちがやってきて、都市が爆発的に拡大しまし

た。その結果、「隣は何をする人ぞ」みたいに都市のなかで人々が分断されてしまいました。ですから、日本の都市がむしろ社会性を失ってきてしまいました。今、これが犯罪の問題や社会不安の問題とも結び付いていまして、新しく新たにもう一度過去の町内会やコミュニティなどを再形成して、町のなかにも社会集団をきちんとつくっていくということが必要ではないかという議論があるわけです。

そのことを踏まえ、朱先生が提案されたような研究は非常に重要だと思いますが、そのあたりをどのようにお考えになるのでしょうか。もう一度言いますと、特に地域社会をつくり出していくときに、それをまとめる絆は、中国の場合では、どのへんに見いだすことができるのでしょうか。そのようなことを少し考えました。

それから、孫先生のお話は私も少しだけですが、青海省をのぞかせていただいて、非常に実感を込めて先生のお話をよく理解することができたと思います。

黄河の下流が非常に汚れているのは、青海省の

人たちが河で手を洗うからだというような冗談を言われましたが、昨日の写真でもわかりますように非常にきれいな河でした。黄河ではなく、白河（ホワイトリバー）です。まだ本当に弱い環境です。それゆえに触ると壊れそうな環境のなかで、経済成長もしなくてははいけません。新しい経済活動を、そのなかに導入したり、起こしたりするときに、環境は平野部の地域とはまた違うと思います。特に酸素も薄いです。心臓の負担が大きいのので普通の人にはなかなか大変かなと思うところもありますが、いわゆる経済活動を新たにそこへ定着させる場合に、先ほど出てきました新しい省の名前がありました。青海省のような省は、人間活動の在り方に関してまで新しい案、あるいは提案、あるいは工夫というようなものを持っておられるのかどうか、そのあたりも聞きたいと思いました。

簡単ですが、4人の方に私からの質問状という大げさになりますが、お尋ねです。では早速、宋先生のほうからお願いします。

ディスカッション

○宋献方 非常感谢宫沢和藤田先生。我想宫沢先生讲的水安全问题，和藤田先生讲的城市和乡村的问题，实际上对中国来说，不仅仅是对中国，对人类来说，实际上关键的问题是经济发展和环境保护的一个根本的问题。中国现在提出来一个和谐社会，水安全的问题同样应该说现在中国的水问题非常突出，也就是说从南到北，到处都是问题，中国经常讲的说水多了，经常有洪水，水少了，北方地区经常缺水，水脏了经常水污染，对中国来说随着经济的发展，现在水的污染问题比水少了更为严重。现在中国、中国政府，刚才青海社科院的这个孙院长讲的，青海省的这个生态保护的问题，中国一个最大的问题，现在看20年前或30年前中国中央政府的报告，很早就讲生态保护生态平衡。但是上面中央政府的政策讲起来非常清楚，但是执行下来非常的困难，也就是说人类的一个根本问题，也就说经济发展到不了一定的水平，你要谈生态保护

要谈环境保护实际上非常困难。我们讲的这个，上午侯先生提的一个问题，也是一个关键的问题，到底有没有捷径，就是我们少污染。当然，严格意义上讲，现在中国走的路我觉得这个国际中国学研究的这个目标对中国来说因为日本走了很多道，中国正在学，因为中国的经济改革也好市场经济也好，很多是学日本的，中国近代政治也是学的日本的明治维新，包括中国共产党的这个词，都是从日本学的。我们经常讲的中国近代的政治家，严格意义上都是从日本留学回去的。第一代留学生到欧美的留学生，基本上成了科学家，到日本留学的人成了政治家，包括孙中山先生也好，包括周恩来总理也好，都是从日本回去的。为什么到日本留学的都成了政治家，包括在日本比较有名的一个鲁迅先生，他是学医的，后来都不搞医学了，也搞作家，他去搞政治去了，都是一个值得深思的问题。因为这是一个文化的区别，我想中国可以学习日本的已经走过的